

企画・制作／毎日新聞社営業総本部

広告

街づくりの課題が時代とともに変わる中で、公園の持つ多様な役割が見直されています。近年、居心地のよさで話題になっている公園のひとつが、リニューアル3周年となった南池袋公園(豊島区)。この公園に関わる3人のキーパーソンが集まり、公園の利活用に詳しい佐藤留美さんを進行役に話っていました。

池袋の街づくりと公園整備

「あったらいいな」を自分ごとで

佐藤 南池袋公園は、明るく人々に愛される公園になっています。再整備のきっかけは、小堤 1951年に開園した古くからの公園で、2016年4月にリニューアルオープンしました。以前より地元の方々から、明るく安全・安心な公園に期待する声も寄せられていました。

佐藤 民間のお二人はどう関わられているのですか。平賀 子どもが生まれ豊島区に移住後、縁あって南池袋公園の総合プロデューサーとランドスケープデザイナーを担当することになった。公園の空間づくりだけでなく、仕組みづくりを提案して「南池袋公園をよくする会」を地域の方々と立ち上げた。公園の管理や運営を行政に任せ、加えて自分ごととして参加する仕組みです。公園で行われるイベントが地域の活動になるかどうかが住民同士が話し合い、地元の総意を行政に伝える場として話し合いを継続してきました。



(株)ランドスケープ・プラス代表 南池袋公園をよくなる会初代会長 平賀 達也さん

達也さん 全体を盛り上げていきたい」と声を掛けられ意気投合。企画運営したオープニングイベント後も「日常を劇

場」に感じられる笑顔を、わいづくりに継続して取り組んでいます。ヨガをする人がいて、手作りの品を持ち寄ったマーケットがあり、子どもたちが遊ぶ横で大人は好きな飲みものを飲んで、日常の疲れを癒している。公園から広がる心地よい過ごし方

佐藤 公園のハードとソフトを両立するコツは。青木 毎月のイベントだけではなく、公園の心地よい使い方を提案しています。ビニールシートをラグに替えてもったリベーターは芝生の周りを歩くようにお願いしたり、お声かけの仕方ひとつで気持ちよく受け入れてもらえます。今は芝生の緑に寄り添うようにベビーカーが並ぶように



(株)nest代表 グリーン大通りと南池袋公園の賑わい創出プロジェクト 青木 純さん

佐藤 地域の記憶やニーズを生かせる公園なら、魅力がでますね。

鼎談を終えて

みどりを活用した「グリーンイノベーション」を

皆さんの話を伺って、みどりのあるオープンスペースには、まちを豊かにするチカラがあることを感じました。人々が出会うコミュニティカフェや、地域の野菜が並ぶマルシェ、ウォーキングやヨガ教室、ガーデニングクラブなど、公園での活動は人々を、まちを元気にします。鳥やチョウなどの生きものが訪れて、子どもたちが自然に触れ合う場となります。

東京にも公園や街路樹のほか、まちなかの屋敷林、用水沿いの農地、雑木林など、数百年前から人々が守り育ててきたみどりがたくさんあります。私たちGreen Connection TOKYOも、市民との連携で、今あるみどりを受け継ぎ、より活用していくことで、まちに新たな文化を生み出す「グリーンイノベーション」を図っているところです。



NPO法人 Green Connection TOKYO代表理事 佐藤留美さん

公園が変われば 街が変わる、人が変わる

新しい街づくりの 起点に

佐藤 行政と民間の連携も、うまくいっているように見えます。小堤 時代に合わせた公園も変えていかなければなりません。法律や条例の枠内で、地域の方々と意見交換して公園づくりを考えるのは、チャレンジングです。

平賀 地域の住民同士、そして行政が膝を突き合わせて思いをぶつけ合う南池袋公園の合意形成の在り方は、新しい市民社会のヒントがあるように思います。

青木 南池袋公園でマーケットをやる、地元の商店や商



豊島区公園計画 特命担当課長 小堤 正己さん

小堤 南池袋公園の



南池袋公園

業施設などが関わってくださいます。長年池袋を大切にしてきた方が公園で団結し始めています。また、豊島区は年少人口を中心に人口増が続いていますが、公園を大切にすることも一助になっているのでは。

小堤 豊島区は「まち全体が舞台の誰かが主役になれる劇場都市」をコンセプトに、文化を大切に、女性、子どもにやさしい街づくりを目指しています。公園もその大きな柱です。

佐藤 池袋周辺では、南池袋公園を含めた4公園の整備が進んでいます。小堤 南池袋公園の



池袋駅周辺の4公園

街が変わる、人が変わる各地の取り組み

公園やみどりを生かしながら進む、新しい街づくりの取り組みを紹介します。

「カシニワ」から広がる街の可能性

千葉県柏市では2010年、「カシニワ制度」を開始。一般公開可能な個人の庭や空き地を「カシニワ=かしの庭・地域の庭」と位置付け、空き地を貸したい人と借りて活用したい市民団体をマッチングしています。

鈴木亮平さんは大学院生時代から、NPOの立場でカシニワ制度に関する企画・提案に携わってきました。地元ガーデニングクラブの活動でみどりが増えたり、お祭りやレクリエーションの場に使われたり、地域に役立てられています。さらに「地域の庭として整備や園芸、イベントを行ううち、庭を介して街全体のコミュニケーションが生まれます。ユニットハウス(コンテナ)などの屋内空間があれば、カフェや読み聞かせの会といった広がりも出ます」と、街づくりへ



鈴木さん自身もカシニワを地域の子どもたちと整備

の意義についても教えてください。

また柏駅近くの空き地を利用し、地元の生産者が新鮮な食材を持ち寄った「路地裏マルシェ」も市民緑地認定制度を活用して企画。マルシェをきっかけに店舗に発展したケースもあるそうです。「カシニワは、場所を活用するアイデアやメトリックのある人が土地を

管理できる制度。空き地は原状復帰などのコスト、リスクが少なく、取り組みの最初のステップには最適です。そんなノウハウを生かし、最近では震災復興中の福島県南相馬市でも、空き地を活用するプロジェクトを始めたとのこと。地域の課題に応えながら、活気づくりにつながることが期待されます。



NPO法人Urban design partners balloon 鈴木亮平さん

公園で生まれる、新時代の「公民連携」

岐阜県各務原市の「学びの森」は、広い芝生と小川が印象的な市営公園。園内のカフェ「KAKAMIGAHARA STAND」には親子連れなどが気軽に立ち寄り、店内や芝生の上で、飲みものと会話をしています。

同「スタンド」を運営するかみかみは暮らし委員会の長 縄尚史さんは「ここは文化の発信基地」と力を込めます。ワークショップや「寄り合い」と名付けた交流会などを定期開催。「人と人がつながると、次の展開が広がります」(長縄さん)。昨年には、公園と隣接した場所に、空き家を活用した「かみ食堂」をオープンしました。

毎年11月3日には「学びの森」をメイン会場に、出店やミュージシャンが集まる「マーケット日和」を開催。市に関わりある人が得意分野を持ち寄ることで、毎年

大にぎわいとなっています。キーマンの1人は、各務原市役所の廣瀬真一さん。立ち上げ時は企画・運営担当として走り回り、今は暮らし委員会に引き継ぎ、公民一体で盛り上げています」と話します。

公共空間でにぎわいづくりのプロジェクトを他にも多数手が

掛けてきた廣瀬さんは「ライフスタイルに合った「ちょっといい暮らし」を感じられれば、まちへの誇りや愛着も湧いてきます。公園を利用しながら公民で連携し、その新しいかたちが実現してきました。長縄さんも「関わる人やコトを増やし、より多面的な魅力をアピールしていきたい」と笑顔を見せました。



(一社)かみかみは暮らし委員会 長縄尚史さん

各務原市役所 廣瀬真一さん

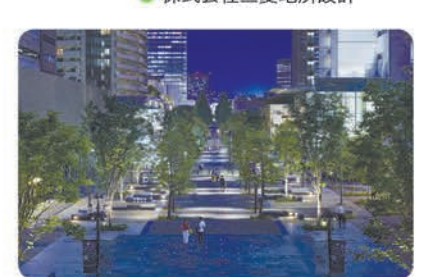
平成30年度 第34回 「都市公園等コンクール」 国土交通大臣賞 受賞作品・団体紹介

都市公園等コンクールは、都市公園等の設計、施工、材料・工法・施設、管理運営について特に優秀なものを表彰し、広く紹介するコンクールです。

日本公園緑地協会のホームページでは国土交通大臣賞をはじめすべての賞の受賞作品・受賞団体を紹介しています。

<https://www.posa.or.jp/>

設計部門 「グランモール公園再整備」 グランモール公園(神奈川県横浜市) 受賞団体 ●横浜市環境創造局 ●株式会社三菱地所設計



施工部門 「肥後細川庭園改修工事」 文京区立肥後細川庭園(東京都文京区) 受賞団体 ●株式会社日比谷アメニス



特定テーマ部門 (子育てに配慮した都市公園等) 「寺山公園・子育て交流施設『い〜てらす』」 寺山公園(新潟県新潟市) 受賞団体 ●新潟市



特定テーマ部門 (多様な主体の新たな参画・協働による都市公園等) 「オレンジパーク/地方創生に資する造園業」 京平川河川公園(富山県中新川郡舟橋村) 受賞団体 ●舟橋村 ●富山大学地域連携推進機構 ●一般社団法人富山県緑化造園士会 ●一般社団法人日本造園建設業協会富山県支部 ●一般社団法人日本造園組合連合会富山県支部

